

平成21年度 国立江田島青少年交流の家企画事業

われら瀬戸内探偵団～瀬戸内海的环境から学ぶ～実施報告書

【趣 旨】 近隣の海岸を使った体験・調査からスタートし、瀬戸内海域へフィールドを広げ、環境問題について考えていく体験的・問題解決的な環境学習を実施する。そのことを通して、今、自分たちに何ができるかを考え、環境保全・保護に配慮した積極的な意欲・態度を養う。

【主催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立江田島青少年交流の家

【共催】 国立大学法人 広島大学、大柿自然環境体験学習交流館

【期 日】 平成21年8月20日（木）～22日（土）

【会 場】 国立江田島青少年交流の家及び荒代海岸周辺

広島大学生物生産学部練習船「豊潮丸」、瀬戸内海海域

【参加者数】 26名（大学生3人、高校生4人、中学生19人）

【主な内容】 荒代海岸で生物調査、アカテガニ・ウミホタルの観察、豊潮丸での海洋観測

【講 師】 広島大学大学院生物圏科学研究科 准教授 橋本 俊也
広島大学生物生産学部附属練習船「豊潮丸」 職員
大柿自然環境体験学習交流館 館長 西原 直久
国立江田島青少年交流の家 企画指導専門職

【企画・運営のポイント】

- (1) 身近な海のよさにふれるため、近くの荒代海岸での生物調査、アカテガニ・ウミホタルの観察を、地元で長年調査・研究を行っている大柿自然環境体験学習交流館館長で博士(理学)の西原直久氏の指導で行った。
- (2) 瀬戸内海海域へとフィールドを広げるため、広島大学と連携し、豊潮丸での海洋観測を行った。その中で、生物採取や都市近郊と離れたところでの透明度調査や採泥を実施し、その比較の中で瀬戸内海の水質について実感させた。

【活動の実際】



荒代海岸での生物調査



アカテガニの観察



豊潮丸での採水



豊潮丸での船内見学



豊潮丸での生物採取

豊潮丸での採泥



環境保全・保護のために実践したいことを発表

【成果と課題】

（成 果）

- （１） 海岸での調査では大柿自然環境体験学習交流館（館長が博士（理学））と海上・海中の調査では広島大学生物生産学部（練習船「豊潮丸」を使用，准教授の指導）とそれぞれ連携し，より専門的な内容の活動を実施することができた。
- （２） 広島大学との連携により海上での調査活動体験を実施でき、瀬戸内海の海岸・海上・海中のそれぞれの視点から体験活動を行うことが可能となり，身近な海である瀬戸内海的环境を良く知ることができた。
- （３） 上記のように，施設の立地条件や国立大学，地元の社会教育施設との協力関係等を生かし当施設ならではの専門性の高い事業が実施できた。
- （４） 事業に参加したことで環境保全・保護に対する意識が高まった。（独自アンケート結果より，回答２４名）

- ・ 環境問題について興味や関心はありますか。（とてもある・ある）

事前：２０人→事後：２３人

- ・ 環境問題について家族や友だちと話す（話していきたい）

事前（よく話す・話す）：９人→事後：（とてもそう思う・思う）：２２人

- ・ 瀬戸内海の美しさを守るために，自分たちは何か取り組みをしなければならない。（とてもそう思う・思う）

事前：２２人→事後：２４人

（課 題）

研修支援事業や他施設でも実施できるような活動プログラムを作成していく。